

オオキンケイギクとキバナコスモス

5月になるとオオキンケイギクが咲き始めます。この植物は、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）により特定外来生物に指定され、在来の植物を脅かす存在として、栽培が禁じられ、運搬・保管・輸入・販売はもちろん、野外に植える、種子を播くなどの行為が禁止されています。オオキンケイギクは明治時代に観賞用として輸入され、荒地での発育が良好で、ワイルドフラワー緑化に多用された経緯があり、全国各地に広まりました。オオキンケイギクの花はキバナコスモスに非常に似ているため勘違いしている人も多いと思われ、また、八重咲きの矮生種があり、園芸好きの方には好まれる草姿です。

そのため、外来生物法を知らないで、または勘違いしたまま、種子や株を家に持ち帰り、庭に植えてしまうケースも想定されます。

キバナコスモスは非耐寒性のため、一年で枯れてしまいますが、オオキンケイギクは多年生で越冬するため毎年増殖しながら咲き続けます。

両者の違いは、花期がオオキンケイギクが5月から7月と早いこと、葉の形状や種子の形状が異なることなどです。

葉の形状の写真を中央に示しました。

(上：オオキンケイギク、下：キバナコスモス)

オオキンケイギクは根生葉の柄が長くて花の時期まであり、キバナコスモスの葉は細かく分かれコスモスに似ています。

オオキンケイギクはキンケイギクとも似ていますが、キンケイギクは花の中心に近いところに紫褐色の蛇の目が入り、オオキンケイギクは黄色一色のため、花で容易に識別できます。

花言葉は、オオキンケイギクは「きらびやか」、キバナコスモスは「野生美、繊細な心」、似た花なのにずいぶん違いますね。



オオキンケイギクの葉



キバナコスモスの葉



キバナコスモスとツマグロヒョウモン

オオキンケイギク

キク科 ハルシャギク属

北アメリカ原産の多年生草本

花期：5月～7月

花色：黄色

高さ：30～70cm



キバナコスモス

キク科 コスモス属

南メキシコ原産の一年生草本

花期：6月～10月

花色：黄色～橙色・輝赤色

高さ：30～100cm





いのち 生命のにぎわい調査団

「生命(いのち)のにぎわい調査団現地研修会」

日時：平成21年5月30日(土) 10:30~14:45
 集合場所：いちほら市民の森 管理事務所前、自家用車では館山自動車道市原 IC から約 30km
 市原市柿木台1011、交通機関は JR 内房線五井駅から小湊鉄道の月崎駅。駅から徒歩 15 分
 URL <http://www.ichihara-forest.jp>

参加申込：平成21年5月17日(日)まで、郵便/FAX 必着
 定員50名(申込が多い場合は抽選を行い、参加決定結果について通知します)
 ※別紙[参加申込書]でお申し込み。郵送またはFAX043-265-3615で申込受付します。
 ※傷害保険をかけるため、当日参加はできません。小・中学生の団員は保護者同伴のこと。
 参加費用：傷害保険料50円を参加者負担。各自で昼食と飲み物を持参。
 研修内容：a. 初夏の生き物観察(夏鳥、山野と水辺の生き物 他)
 b. モリアオガエル 他

季節報告の結果について

2019年ウグイス初鳴きマップ



1月から3月にかけて、ウグイスの初鳴き、アカガエル類・トウキョウサンショウウオ・アズマヒキガエルの産卵の報告が届きました。これから次々に他の季節報告が出てくる時期なので、4月初めまでの報告をGoogleMapに載せてみました。

ウグイスは全部で61件の報告がありました。最初が2月5日、最後が4月1日です。ピークは3月の第2週あたりだったでしょうか。さすがに良く鳴き声を知られた鳥です。報告もたくさんあがってきました。山間から里に下りる時間的な流れが地図上に見えていますでしょうか。

アカガエル類は23件、アズマヒキガエルは15件、トウキョウサンショウウオは11件の産卵の発見報告がありました。

ツバメの初飛・営巣の報告もいっぱいあがって来ています。昨年より少し早いという声が多い様です。ソメイヨシノは開花は早かった様ですが、その後の花冷えで、満開は少し遅れたみたいです。どちらも次回報告で結果をまとめてお見せします。

2019年トウキョウサンショウウオ産卵マップ



ツバメの初飛・営巣の報告もいっぱいあがって来ています。昨年より少し早いという声が多い様です。ソメイヨシノは開花は早かった様ですが、その後の花冷えで、満開は少し遅れたみたいです。どちらも次回報告で結果をまとめてお見せします。

2019年アカガエル類産卵マップ



2019年アズマヒキガエル産卵マップ



撮影：タカチャン

アズマヒキガエルの産卵報告の中にこんな写真がありました。オスがメスに後から抱きついて、まさに産卵をしている最中です。メスの体内から出たばかりの卵のうは細いのがわかります。これからまわりの寒天質が水を吸って膨らみます。

アズマヒキガエルも、トウキョウサンショウウオやアカガエルと同様、繁殖時期のみ水のある所にやってきます。オスは水の中で鳴きながら、メスがやってくるのを待ちます。

下の写真は同じく団員タカチャンの報告に付いて来た写真ですが、アズマヒキガエルのオスが間違っウシガエルに抱きついてしまったようです。アズマヒキガエルのオスは、抱きつけるものなら何でも抱きついてしまうようです。



撮影：タカチャン

抱きついた相手がアズマヒキガエルのメスであれば、卵を産み終わった時にリリースサイン(放せの合図)を送って、放してもらうのだそうですが、この場合はどうなってしまうのでしょうか。

次号にぎわい通信は？

- ◎調査対象生物解説 渡り鳥(夏鳥)
- ◎調査団からのお知らせ 里山シンポジウム5/17と分科会、県中央博物館の企画展 他